

2 - (3) スルメイカ資源調査

足立 惣平

目的

スルメイカは、日本周辺を回遊しながら生活している。鳥取県におけるスルメイカは、孵化後に日本海を北上する北上回遊群、産卵のため南下する南下回遊群がそれぞれ、春季と冬季に漁獲される主要な漁獲対象種である。スルメイカの漁獲量は近年全国的な減少傾向が認められ、境漁港においては1971年の31,800トンピークに以後減少し、2007年以降は1,000トン以下にまで落ち込んだ。本調査は、今後の資源動向を把握するために釣獲試験、精密測定を実施し、基礎知見を得ることを目的として行った。

方法

以下の項目について調査を行った。

①水揚状況のとりまとめ

主要水揚港である境漁港において、スルメイカの水揚量や生殖腺指数等を算出し、資源動向を把握した。境漁港に水揚げされた本種を各銘柄1~2箱ずつ入手し、全個体について生物測定を行い外套膜長・体重・生殖腺重量等を測定した。水揚量は、測定結果から1箱当たりの平均重量を算出し、合計水揚箱数に乗じて算出した。

②スルメイカ釣獲調査

2025年4月、6月、2026年2月に試験船第一鳥取丸を用いた自動イカ釣機による釣獲試験を実施し、漁場の位置や来遊状況を調査した。採集した最大50個体を対象に生物測定を行い、外套膜長・体重・生殖腺重量等を測定した。また、6~7月には国立研究開発法人水産研究・教育機構が主体となり鳥取県、兵庫県、福井県、石川県、富山県、新潟県、山形県、北海道が参加し、スルメイカ資源量を推定するため一斉釣獲試験を実施し、す-1線（前章図5）で釣獲試験を実施した。なお、調査結果は、操業終了後ただちに結果を取りまとめ、船上から水産試験場を経由し、漁協等の関係機関に情報提供した。

結果

①水揚状況

2025年の境漁港における漁船規模別月別銘柄別水揚量を表1に、小型イカ釣船（総トン数10~30トン）によるスルメイカ水揚量（生鮮）の推移を図1、小型イカ釣船によるスルメイカ月別水揚

量（生鮮）の推移を図2にそれぞれ示した。2025年の境漁港では、中型イカ釣船（総トン数30~138トン）による水揚げは認められなかった。小型イカ釣船による水揚量は合計32トンを示し、前年と平均（直近10年）を下回った（前年比16%、平均比12%）。2025年における月別水揚量は、全体的に低調に推移し、主漁期とされてきた2月の水揚量は前年平均を下回った。前年10月から11月にかけて、平均を上回る水揚げが認められたが、2025年は水揚げがほとんど認められず、鳥取県沖で漁場形成されなかった可能性がある（図2）。なお、2025年は、スルメイカのTAC上限を超えたため、小型イカ釣船（総トン数10~30トン）は、11月1日から休漁措置を講じた。鳥取県では、試験操業を行うこととし、12月19日から漁業活動を再開した。

②スルメイカ釣獲調査

調査位置および調査結果を表2に示した。2025年の釣獲試験のCPUEは、4月と6月の調査で、前年を上回った。2月の調査は前年欠測だったため、前年との比較はできなかった。スルメイカ漁場一斉調査は、6月下旬から7月上旬に3定点で調査を実施し、CPUEについては、3定点中1定点（定点番号17）で前年を上回り、1定点（定点番号3）で前年を下回った。残り1定点（定点番号13）は、前年欠測だったため、前年との比較はできなかった。

CPUEが前年を上回った定点もあったが、釣獲調査結果は概ね低調だったことから、2025年の釣獲試験期間における鳥取県沿岸域のスルメイカ来遊量は前年と同様に低調だったと考えられる。

表1 小型イカ釣船(10-30トン)による境港スルメイカ月別・銘柄別水揚量 (単位:トン)

区分	月												合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
入港隻数	16	5	81	59	19	20	21	26	48	15	0	1	311
19以下入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
20入	0.2	0.4	7.8	0.7	0.2	0.3	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	10.1
25入	0.0	0.1	5.0	1.2	0.9	0.7	0.2	0.2	1.1	0.2	0.0	0.0	9.5
30入	0.1	0.0	1.4	1.4	0.9	1.1	0.2	0.3	1.1	0.2	0.0	0.0	6.7
40入	0.0	0.0	0.4	2.4	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	3.4
50以上入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.2	0.5	0.1	0.7	0.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	2.1
木箱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	0.3	0.5	14.7	6.1	2.1	2.9	0.7	1.3	2.6	0.5	0.0	0.1	31.9

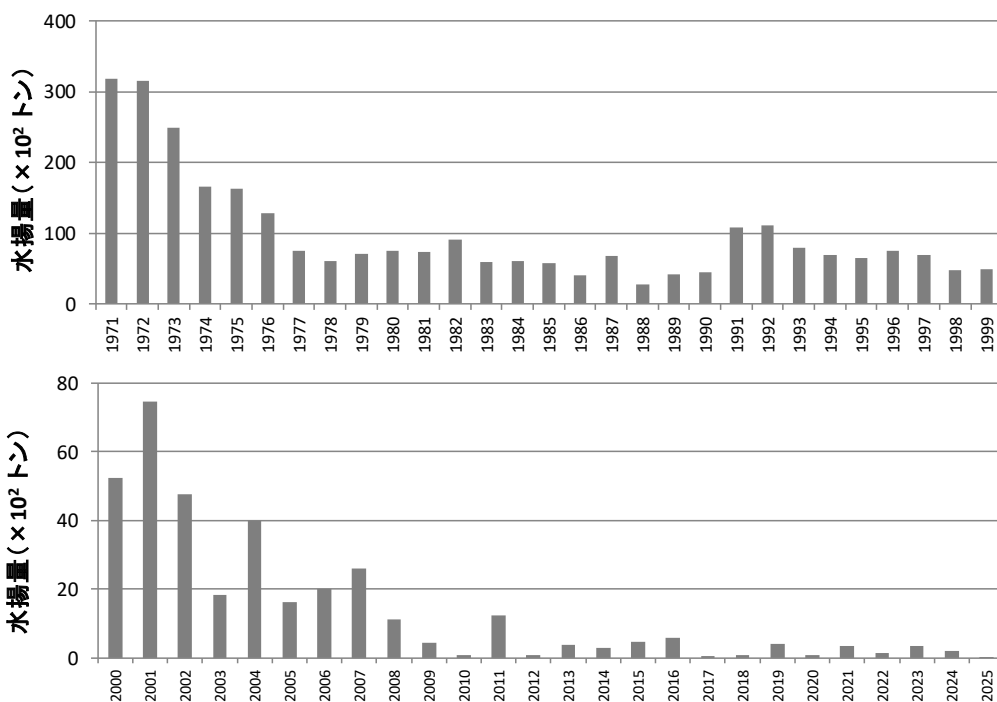


図1 境港の沖合スルメイカ水揚量(生鮮)の推移

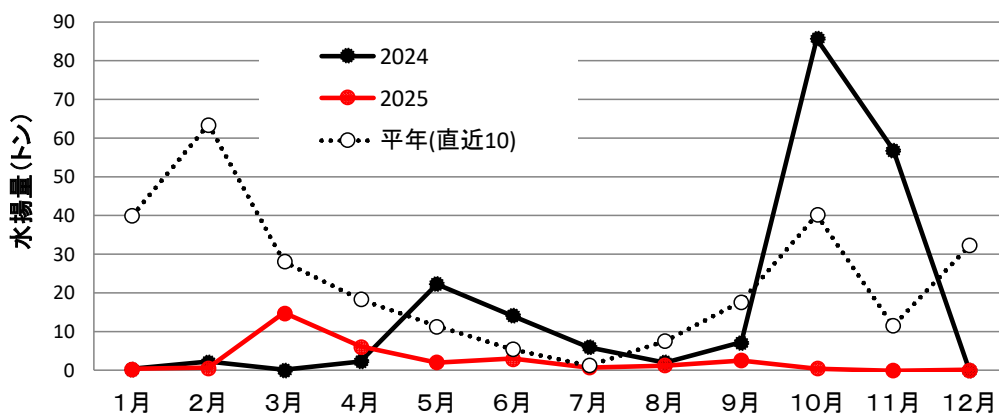


図2 境港の月別沖合スルメイカ水揚量(生鮮)の推移

表2 スルメイカ釣獲試験結果の概要

調査名	実施 期日	定点 番号	位置	水深 (m)	釣獲 尾数	CPUE (イカ釣り機1台1時間 当たりの漁獲尾数)	外套長 範囲(cm)	外套長 モード(cm)
スルメイカ 釣獲試験	4/17		N35.40 E134.03	106	49	1.24(0.64)	11-22	16
	6/24		N35.34 E133.48	45	76	1.90(0.55)	11-22	19
	2/19		N35.45 E132.25	69	6	0.16(-)	15-21	15, 18
スルメイカ 漁場一斉調査	6/23	3	N36.00 E132.20	738	30	0.75(1.79)	12-22	18
	7/1	13	N37.40 E133.09	1569	4	0.11(-)	18-21	—
	7/2	17	N36.20 E133.00	166	313	10.63(7.85)	13-23	17

※()は前年同月中に行われた調査の最大CPUEを示す